



自己歯髄組織由来幹細胞を用いた
抜髄後歯髄組織再生療法臨床研究の患者登録を開始
—歯の延命化による QOL 向上—

平成 25 年 4 月 10 日

独立行政法人国立長寿医療研究センター（総長：大島伸一）歯科口腔先進医療開発センターは、ヒト歯髄幹細胞を用いた抜髄後歯髄組織再生治療の臨床研究のための患者登録を4月1日より開始しました。

現在、骨髄や脂肪など、体中の多くの組織には幹細胞が存在することが知られ、その幹細胞を移植する再生療法が注目されています。

歯の中の歯髄組織の中には、血管と神経を作るのに有利な幹細胞が多く含まれており、噛みあわせに関係していない不用の歯（「親知らず」や矯正治療で便宜的に抜く予定の歯など）から歯髄幹細胞を取り出すことができます。今回、私たちは進行した虫歯の治療として神経を抜いてしまった歯の根の中（根管）に、患者さん自身から採取した歯髄幹細胞を移植して、歯の神経（歯髄）を元通りに回復させる歯髄再生治療法の臨床研究を開始します。

※動物実験では、2か月で歯髄が再生し、知覚を取り戻しています。（近く、専門雑誌 *Stem Cells Translational Medicine* に掲載予定）

従来の治療では知覚がなくなるため、再び虫歯になっても気づかず進行したり、根管に人工物を詰めるために隙間ができ、お口の中から細菌が深く根管内に侵入し根の下に膿が溜まる病気になったりする可能性があります。これにより歯が折れやすくなり、抜歯に至る可能性が高くなるという問題がありました。

歯髄幹細胞による歯髄再生治療法が成功すれば、歯を長持ちさせることにつながり、患者さまの健康長寿の実現に大きく貢献できると考えております。

※本臨床研究については、「ヒト幹細胞を用いる臨床研究に関する指針」に基づく厚生労働大臣の承認を、平成24年11月27日に取得しております。

【リリースの内容・試験に関するお問い合わせ】

歯科口腔先進医療開発センター 再生歯科医療研究部 中島、庵原

電話：0562-44-5651（代表）内線：5066 E-mail：ddrm@ncgg.go.jp

【報道対応】 総務部総務課

電話：0562-46-2311（代表） E-mail：webadmin@ncgg.go.jp

自己歯髄幹細胞を用いた 歯髄再生治療法

